

商業科学習指導案

単元名「プロモーション政策」

令和6年10月 第1学年 指導者 角田 大輔

I 単元の構想

1 単元観

ビジネスを適切に展開して企業の社会的責任を果たす視点を持ち、ビジネスの場面を想定し、市場調査、製品政策、価格政策、チャネル政策及びプロモーション政策の立案に取り組む実践的・体験的な学習活動を行うことなどを通して、マーケティングの考え方の広がりに対応し、マーケティングについて組織の一員としての役割を果たすことができるようにすることをねらいとした科目である。

本単元では、消費者の購買行動を促進する様々なプロモーションの種類とその特徴について学ぶ。プロモーションとは販売促進とも訳され、消費者志向のマーケティングを実現するために重要である。その中で、消費者に選んでもらえるにはどのようにすればいいのか、新しいメディアを使ったプロモーションはどのような利点があるのかなどを学び、そこで得た知識や技術と結び付け、収集したデータを活用し、まとめる力を養う。また、実際にプロモーション政策を事例と関連付けて取り扱うことにより、内容をより理解させるとともに、収集・分析・発表する技術を身に付けさせる。

2 研究との関わり

「ビジネスを適切に展開する力の向上を目指して自らマーケティングについて学ぶ態度及び組織の一員として自己の役割を認識して当事者としての意識を持ち、他者と信頼関係を構築して積極的に関わり、市場調査の実施と情報の分析、製品政策、価格政策、チャネル政策、プロモーション政策の企画と実施などに責任をもって取り組む態度を養うこと」〈高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 第5節 マーケティング 1 目標(3)〉がねらいとするマーケティングにおいて、研究主題を研究することにより、マーケティングを通して得た知識と技術を活用して、生徒たちが自ら考え、自らの言葉で発信することで答えのないことが多い経済社会に柔軟に対応する力を身に付けることができると考える。

しかし、マーケティングの授業と実社会とのつながりが実感できず、苦手意識をもっている生徒が多いと感じる。また、コミュニケーションをとることが少なく、自分の考えを発信したり他者の意見を聞いたりしてまとめることが苦手で、成功体験が少ないことを課題として捉える。そこで、実社会の課題を取り入れたマーケティングの学習活動を通して、生徒の興味や関心を高め、意見交換しながら解決策を導き出し、さらに改善する場面を設定することで、考えをアウトプットしたり、自らの思考を深めたりする機会を充実させたいと考えた。

3 単元の目標及び生徒の実態

	目 標	生徒の実態
知識及び技術	・プロモーション政策について事例と関連付けて理解するとともに、収集・分析する技術を身に付ける。	・実社会では消費者に商品を知ってもらうために、様々な政策が展開されているが、日常において十分に意識化されていない。
思考力、判断力、表現力等	・プロモーション政策を活用し、マーケティングの対象となる消費者を見出すことができる。	・プロモーション政策がなぜ必要なのか深く考える機会が少ない。
学びに向かう力、人間性等	・プロモーション政策について自ら学び、活動や実習に主体的かつ協働的に取り組む。	・活動や実習に対して積極的に行う生徒と消極的な生徒と二極化している。

4 評価規準

知識・技術	・プロモーション政策について事例と関連付けて理解するとともに、収集・分析する技術を身に付けている。
思考・判断・表現	・プロモーション政策を活用し、マーケティングの対象となる消費者を見出している。
主体的に学習に取り組む態度	・プロモーション政策について自ら学び、活動や実習に主体的かつ協働的に取り組もうとしている。

5 指導及び評価、ICT活用の計画（全9時間：本時第8時）

過程	時間	<input checked="" type="checkbox"/> ねらい <input type="checkbox"/> 学習活動 <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用に関する事項	知	思	態	◆評価項目<方法（観点）> <input type="checkbox"/> 指導に生かす評価 <input checked="" type="checkbox"/> 評定に用いる評価
		<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>[単元の学習課題・問い等] プロモーション政策の知識・技術を活用しながら課題解決に向けた学習過程で意見交換し考えを深める。</p> </div>				
	1	<input checked="" type="checkbox"/> プロモーション政策について関心をもつ。 <input type="checkbox"/> 本校のポスターを作成する(★)。(PRを目的とするポスター)			○	◆プロモーション政策について関心をもっている。 <生徒観察・ポスター（態）>
つかむ	2	<input checked="" type="checkbox"/> 消費者の購買行動を促進するさまざまなプロモーション政策の概要を理解する。 <input checked="" type="checkbox"/> プロモーションの種類を学び、メディアの種類と特徴を理解する。 <input checked="" type="checkbox"/> 広告を作成する意義や、その効果を測定するまでの広告計画の流れを理解する。 <input type="checkbox"/> 教科書・ワークシートを活用してプロモーション政策の概要を理解し、Canvaにまとめる(★)。	●	●	●	◆プロモーション政策の概要を理解できている。 ◆プロモーションの種類を学び、メディアの種類と特徴を理解できている。 ◆広告を作成する意義や、その効果を測定するまでの広告計画の流れを理解できている。 <ワークシート・Canvaのスライド（知）>

つかむ	3	<p>■ 広報の重要性や役割、種類を理解しセールス・プロモーション、トレード・プロモーション、消費者・プロモーションそれぞれの特徴を理解する。</p> <p>□ 教科書・ワークシートを活用して広報の役割を理解しCanvaにまとめる(★)。</p>	●		<p>◆ 広告を作成する意義や、その効果を測定するまでの広告計画の流れを理解できている。</p> <p><ワークシート・Canvaのスライド(知)></p>
	4	<p>■ 顧客のニーズに合わせて情報をカスタマイズして適切に提供する販売員活動について理解する。</p> <p>■ 新しいメディアの特徴や変化を理解し、新しいメディアを使ったプロモーションの動向について理解する。</p> <p>□ 教科書・ワークシートを活用して販売員活動について理解し、Canvaにまとめる(★)。</p>	●	●	<p>◆ 販売員活動について理解できている。</p> <p>◆ 新しいメディアの特徴や変化を理解し、新しい技術を使ったプロモーションについて理解できている。</p> <p><ワークシート・Canvaのスライド(知)></p>
追究する	5・6	<p>■ 実社会の課題に対し、プロモーション政策の知識・技術を活用してチームで解決策を導き出す。</p> <p>□ SWOT分析で本校の現状把握を行う。</p> <p>□ SWOT分析の結果から学校紹介ポスターの広報手段を考える。</p> <p>□ Canvaを使用し学校紹介ポスターを作成する(★)。</p>	●	○	<p>◆ プロモーション政策の知識・技術を活用してワークシートに自分や他者の考えを統合しながら、解決策を考えることができている。</p> <p><ワークシート・ポスター(思)></p> <p><生徒観察・対話(態)></p>
	7	<p>■ 課題に対する解決策を提案し、チーム間で情報共有を行い、新たな視点を獲得。</p> <p>□ 作成したポスターと広報手段の内容をチームごとに提案する。</p> <p>□ 他チームへ質問したり、意見をFigJamに入力したりする(★)。</p> <p>□ 他チームからの質問や意見をチーム内で共有する。</p>		●	<p>◆ 解決策を分かりやすく提案し、他チームからの質問や意見を取り入れている。また、積極的に質問したり意見を発信したりしている。</p> <p><提案(発表)・発言 FigJamのコメント(態)></p>

追究する	8 (本時)	<p>[本時のめあて・課題等] 他チームの意見を取り入れ、解決策をブラッシュアップし、よりよい広報手段を考えよう。</p> <p>■各チームで問題点を把握し、解決策をブラッシュアップして改善点をまとめ、よりよい提案ができる。</p> <p>□他チームの意見から問題点を把握する (FigJamを活用する) (★)。</p> <p>□ブラッシュアップを行い、ポスターと広報手段の改善点を考える。</p>	●	○	<p>◆他チームの意見から問題点に気付くことができ、改善点を導き出している。</p> <p><ワークシート (思) > <生徒観察・対話 (態) ></p>
	9	<p>■第1時に個人で作成したポスターをブラッシュアップし、プロモーション政策について個人で理解を深める。</p> <p>□ワークシートを活用し、第7～8時までの意見を取り入れて、ブラッシュアップをする。</p> <p>□ポスターの改善を行う (★)。</p> <p>□振り返りをする。</p>	●	●	<p>◆個人で作成したポスターをブラッシュアップし、プロモーション政策について新たな視点を持ち、理解を深めることができている。</p> <p><ワークシート (思) > <ポスター (態) ></p>

II 第8時の学習

1 ねらい 他チームの意見を取り入れ、解決策をブラッシュアップし、よりよい広報手段が提案できるようにする。

2 展開

主な学習活動 予想される児童(生徒)の反応〔S〕 ★ICT活用に関する事項	◎研究上の手立て ○指導上の留意点 ◆評価項目(観点)
<p><めあて・課題等> 他チームの意見を取り入れ、解決策をブラッシュアップし、よりよい広報手段を考えよう。</p>	
<p>1 ワークシートから本時の内容を理解し、めあてをつかむ。 S：他チームからどんな意見が出たかな？</p> <p>2 オンラインツールを活用して本時のキャッチコピーを決定する(★)。 S：自分のキャッチコピーが選ばれるように頑張ろう！</p> <p>(導入5分)</p>	<p>○前時までの内容を振り返り、本時のブラッシュアップについて説明する。</p> <p>○オンラインツールのランキング機能を活用し本時のキャッチコピーを表示する。</p> <p>○選ばれた作品を紹介しよい点を評価して称賛する。そして本時のねらいを具体的に示す。</p>

<p>3【ワークシートSTEP5】 他チームの意見を整理し問題点を把握する。 S：こういう考えもあるよね。</p> <p>4【ワークシートSTEP6】 ポスターと広報手段の改善策を考える。 S：もっとこうすればよくなると思うよ。 S：どんな手法を取り入れればよくなるかな？</p> <p>改善策をまとめ、提案する内容を整理する。 S：他チームの意見がとても参考になるね。 S：ブラッシュアップして前よりよくなった！ S：考え直すのは大変だけどおもしろいな～ (展開①25分)</p> <p>5【ワークシートSTEP7】 ブラッシュアップした内容を再度提案する。 (提案説明2分×5チーム 10分) S：みんなの意見が反映されたかな？ S：チームで考えた案だから自信をもとう！</p> <p>6【ワークシートSTEP8】 一番よい提案をしたチームを入力する。 (展開②15分)</p>	<p>◎チームの役割から具体的なシチュエーションを想定させ、全員が意見を出しやすい雰囲気を作り、活発な意見交換ができるよう声かけをする。</p> <p>◎ブラッシュアップする機会を設け、他者からの意見を取り入れながら問題点を把握する過程を通して、よりよい提案を目指すように促す。また、分析や改善する作業を学習活動に取り入れることで、思考の深まりを目指す。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>◆評価項目 他チームの意見から問題点に気付くことができ、改善点を導き出している。 <ワークシート(思)> <生徒観察・対話(態)></p> </div> <p>○提案した内容と発表者を称賛する。また、一番よいチームの発表と全チームに対して、改善策の講評をする。</p>
<p>7【ワークシートSTEP9】 本時を振り返り、次回の見通しをもつ。 S：どのくらい頑張れたかな？ S：どんなことを学べただろう？ (終末5分)</p>	<p>○ワークシートの評価項目に留意させ、他者と協力して活動することや情報共有の大切さ、また自己の学びについて振り返りをさせる。</p>

3 板書計画【ICT端末による共有資料】

<ul style="list-style-type: none"> ・本日のめあてを示す ・本日のキャッチコピーを示す。 ・教師パソコンの画面 (FigJam) を投影する。→ブラッシュアップの前後が比較できるように工夫する。 <ol style="list-style-type: none"> ①第5～6時に作成した各チームのポスター ②第5～6時に考えた広報手段 (ワークシートのSTEP2) ③第7時で集約した意見 (付箋) ④第8時でブラッシュアップした広報手段 (ワークシートのSTEP6)
--

本指導案に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。Canvaは、Canva Pty Ltd.の商標又は登録商標です。FigJamは、Figmaの商標又は登録商標です。なお、本文中には ™ マーク、® マークは明記していません。